# 植物相調査 番外編

植物は生産者として生態系の基盤となる役割を担い、多様に分化した生育特性によって様々な環境に適応して生育しています。降水量の多い日本では、高山帯の岩の上から、高度に都市化の進んだ市街地内にいたるまで、わずかな土さえあればどこかに何らかのかたちで生育が見られます。植物相調査では、調査地内を任意に踏査し、確認された植物種をリストアップしていきますが、調査地内に見られる様々な環境を出来る限り網羅するようにルートを選び、効率的かつ詳細に種相を把握することが大切です。調査地内をやみくもに歩き回っているわけではありません。沢を登り、森をぬけ、藪をかき分け、時には町中をひた歩き、様々な環境を網羅するように考えながら歩くと、自ずと調査する時の視野が広がってきます。結果として、植物相調査時には植物以外の生き物に遭遇する機会も多くなります。ここでは植物相調査番外編として、その様にして遭遇する生き物について少し紹介したいと思います。　【東京本社自然環境研究室・彦坂洋信】

## 花咲く森のみち～♪

森ではよく、様々な哺乳類の痕跡に出会います。ノウサギ、タヌキ、ニホンジカ、カモシカ･･･。多くは糞や足跡ですが、まれに成体そのものや死骸に出くわすこともあります。

人里離れた森の中をただ一人歩き回っていて、不意に足元からノウサギが走り逃げる時にはもうビックリ仰天、心拍数が一気に上昇します。カモシカは何だかのんびりしたやつで、人が近づいても急いでは逃げず、茂みの中でガサゴソしています。山深い現場で、地元の人に「この辺でこの前クマがでたぞぉ。」なんて聞かされた時に、その「ガサゴソ」をやられると、姿がよく見えないので、「クマか？クマなのか？」と手のひらにいやなあぶら汗がにじんできます。

私はまだツキノワグマに遭遇したことはないですが、その糞や爪痕は見つけることがあります。その様な場所は、ツキノワグマが生息するくらいですから、比較的自然豊かな環境であることが多く、貴重な植物が生育していることも期待されます。「珍しい植物が見つかるかも･･･」と胸躍る反面、あまり長居はしたくないと思う心の葛藤に止まないのです。

ツキノワグマの糞。近くではラン科の珍品が見つかるなど、面白い場所でしたが･･

林縁で見つけたアオダイショウ

## 蛇の道は蛇

水田の畦や日当たりの良い林縁などでは、ヤマカガシ、アオダイショウ、シマヘビといったヘビ類によく遭遇します。その様な環境では、足元2～3m位の範囲を見ながら植物相調査を行うので、ヘビを見つけた時にはそいつは既に逃げ始めており、なかなか写真に収めることが難しかったのです。

しかしある日、水田に接する林縁を歩きながら、ふと「あぁ、ヘビが居そうな場所だな」と思い、少し周囲を見渡すと･･･居ました居ました、大きなアオダイショウです。逃げないようにゆっくり近づいてパチリ、うまいこと写真を撮ることができました。両生・爬虫類屋さんならお手のものなのでしょうが、なるほど「蛇の道は蛇」の心境で探せばうまくいくものです。植物相調査でもそうですが、ある環境を見て「あぁ、ここには○○が生えていそうだな」と思いながら歩いて、実際にその植物が見つかったりすると、嬉しさもひとしおなのです。

## 楽しい池探し

植物相調査において、水域は、水辺に依存する植物が観察できる場所として、その地域の環境の一つの特色となります。特に、ため池などの止水的環境や流れの緩やかな河川では、抽水・浮葉・沈水植物といった様々な形態の水生植物の生育が見ら

ここには何がいるかな･･･

こんな町中の植え込みにも･･･

ため池に生みつけられた
クロサンショウウオの卵嚢

こんな立派な
ナミアゲハの幼虫が！！

れるので、それらの水域は念入りに見て歩きます。谷奥の小さな池などでは、水生植物のほかにしばしば両生類の成体や卵を見つけます。カエルやサンショウウオの多くは、繁殖地として池などの水域を利用し、成体は普段樹林などの陸域に生息しているため、その生息環境としては、樹林と水辺がセットで存在し、なおかつその間の行き来ができるように接していることが必要です。一つのタイプの環境だけを残しても種が保全されないという、生態系の複雑さを端的に示す例として分かりやすく、そのような視点で環境を捉えながら池を探すと楽しいものです。また、後に生態系の評価検討をする時にも役立つ大切な視点の一つだと思います。

## 都市の生き物たち

時には、所変わって都会のど真ん中で調査することもあります。それでも植物はわずかに残存する畑や公園、植え込み、道端などに生育しており、それなりの調査になります。場合によっては、断片的に残る緑地を効率よく見て回るために、自転車で移動しながら調査なんてこともやります。さすがに都会では、哺乳類や両生・爬虫類の影はほとんど見られませんが、鳥や昆虫、クモなどの類には、自然性の低い都市環境にも生息できる種が見られます。

都市環境でもよく見かける生き物としてチョウ類が挙げられます。チョウ類の場合、幼虫は特定の植物の葉を食べ、成虫は主に花蜜を吸う生活であり、植物との直接の結びつきが強い生き物です（チョウ類に限らず昆虫類の多くがそうですが）。都市環境にも生息するチョウ類の代表格は、アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ヤマトシジミでしょう（東京の場合）。アオスジアゲハはクスノキやタブノキ、ナミアゲハはミカン類、ヤマトシジミはカタバミが食草・食樹で、クスノキは街路樹、ミカン類は庭木、カタバミは路傍雑草として都市環境に普通に見られる植物です。また、成虫の餌となる花蜜は、公園や庭先などに草木の花が多くあります。だからこれらのチョウ類は都市環境でも生きていけるのですが、都会でその幼虫を見かけたことのある人は少ないのではないでしょうか。実際よく調べると、ミカン類などは庭先や植え込みに意外と多く植えられていて、幾つか眺めていくとすぐにナミアゲハの幼虫が見つかったりします。

いつも足早に通り過ぎる道端でも、少し足を止めると密かな生き物たちの営みを観察できるかもしれません。

## 変?!な植物 BEST3

植物相調査とうたいながら、動物の話ばかり続いてしまいましたので、最後に植物相調査で見つけた変な植物を個人的趣向により選んでみました。

BEST1：ツチアケビの実

ラン科の腐生植物。葉緑素を持たず、きのこのナラタケと共生する。ぶら下がった赤茶色の果実はまさにソーセージ。薄暗い林床に立つ姿は非常に不気味である。

BEST2：ナンバンギセル

ハマウツボ科の一年草。ススキなどの根に寄生して生える。一つ一つの花はきれいだが、いっぱい集まって咲いていると少しきもちわるい。

BEST3：ウマノスズクサの花

ウマノスズクサ科のつる性多年草。怪しいラッパ型の花からは何かが出てきそう。